

自由応募分科会 3 「ベトナム社会の上位層」

報告 1

石塚二葉（アジア経済研究所）

「ドイモイ期ベトナムの政治エリート層」 (Political Elites in Doi moi-Era Vietnam)

【報告要旨】

ソ連・東欧の社会主義体制においては、ノーメンクラトゥラと呼ばれる党官僚層が政治・経済・社会資源を独占的に保有していた。政治的には社会主義体制を維持しつつ市場経済化を進めてきた中国では、同様の党官僚層が改革されずに残り、特権階級として固定化しつつあるという。中国と比べて社会の階層化および階層研究が進んでいないベトナムでも、近年、党・国家指導層を社会階層構造の最上層に位置づける研究が現れている。

本報告では、まず、ベトナムの市場経済化以前の政治エリート層（党・国家指導層）がどのような特性をもち、それが市場経済化によってどう変化し、あるいは変化していないのかについて論じる。次いで、現代ベトナムの政治エリート層の任用にかかる制度・実務を検討し、その階層としての開放性、閉鎖性について予備的な考察を行う。

ドイモイ期の党・国家指導層は、それ以前の指導者たちと比べると、より制度化が進んだ党・国家システムのもとで、任期に従って国務を担当するテクノクラートの性格が強くなっている。また、市場経済化により、経済・社会に占める党・国家機構の管理領域は縮小し、その影響力や社会的地位は相対的なものとなっている。他方、現行の「社会主義的法治国家」や「社会主義志向市場経済」路線は、一部の公務員が「権力によって富を獲得する」ことを容易にしている。統計的に把握することは難しいが、ドイモイ期党・国家指導層によって蓄積されている富の規模は、計画経済期のそれの比ではないと推測される。

そのような意味において特権的な政治エリート層である党・国家指導層の構成員を選ぶ人事の仕組みについてみると、そこには継続性、安定性、「構成」の重視、政治システム内部の昇進とローテーション、それに学歴重視などの特徴が見いだされる。これらに加え、広く指摘されるネポティズムや官職売買の横行は、党・国家指導層への参入のハードルが高いことを示唆する。